

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育方法論 Theory of Teaching Method		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(幼稚園教諭二種))	こどもフィールド
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育原理、教育原理				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
幼稚園免許取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小林研介	講義棟1階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
教育法概の原理、幼稚園教育の基本(環境を通しての教育、幼児期にふさわしい生活の展開、遊びを通しての総合的指導、幼児一人一人の特性に応じた指導)、「個」と集団を活かした教育方法、教育の形態、欧米における近代教育方法の成立と展開等について講義し、「生きる力」を育むための教育方法の最適化を考える。				
授業の目標				
①幼児期の教育の方法を確認することができるようにする。 ②幼児期の教育とそれ以降の教育の関係を証明することができるようにする。 ③幼児教育の実際とは何かを実践することができるようにする。 ④子どもたちの興味関心を高める保育について探求し、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用することができ、効果的な教材作成をすることができるようにする。				
授業の方法				
講義での座学の理解だけでなく、教育法の実際を写真や瑛ぞを通して知り、視聴していく中で、その意味するところを考察し、実際に行い、実践活動を考えていく。				
学習の成果(学習成果)				
幼児教育の方法、指導に関する知識、技術を活用して、「生きる力」の基礎を育むことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業の目的を確認し、子どもの資質と能力を育てる。—教育方法の基礎的理論と実践について—			
第2回目	遊びを通しての教育方法の基礎。			
第3回目	なぜ「遊び」という方法をとるのか。—遊びにおける基礎的要件について—			
第4回目	環境による教育とは何かを考察する。			
第5回目	私たちの周りの環境を考え、適切な環境とするためには何が必要かを探る。			
第6回目	環境構成の実際を考える。			

第7回目	学校教育とそれぞれを繋ぐものを考える。—学習の評価とは—	
第8回目	幼稚園教育要領における『10』の姿を知る。	
第9回目	子どもたちの活動中で育つものの読み取り(認知能力)	
第10回目	子どもたちの活動中で育つものの読み取り(非認知能力)	
第11回目	幼児期の教育の実際 — I — 基礎的技術とは何か	
第12回目	幼児期の教育の実際 — II — 基礎的技術の習得	
第13回目	アフォーダンスという考えを探る。—情報機器を知る—	
第14回目	幼児期の特徴を見る。—主体的・対話的で深い学びとは—	
第15回目	基礎的な学習指導理論を理解し、教育の目的に適した指導技術を理解し身に付けることの確認。	
事前・事後学習	いろいろな幼稚園の幼児教育の方法を調べる。指導の方法の実践例を書き残していく。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業に出席し、科目担当が指示する授業に必要な準備をしていること。私語、居眠り厳禁。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	70%	定期試験を実施する。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験(職種:幼稚園園長、職歴:通算25年) 私語が多い場合は退席をさせるときもある。		

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育方法論 The Theory of Educational Methods		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(栄養教諭))	栄養の教職課程履修者のみ受講可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
松崎勇人	本館2階	月曜・水曜・金曜の講義のない時間		授業中に指示します
授業の概要				
教育方法の基本を理解する。教育の技術(情報機器および教材の活用)について理解する。授業の方法や評価法を理解する。発達と教育方法について考える。				
授業の目標				
①様々な教育の方法及び技術(情報機器および教材の活用)について区別し、これらを実際に目的に合わせて活用することができるようにする。 ②授業を構成する要素や方法や評価方法を工夫することができるようにする。 ③発達や個性に応じて教育方法を工夫することができるようにする。				
授業の方法				
黒板やプリントを使つての説明を行う。実践事例に触れる。また、教育に関するテーマについて討論したり、基本的問題を解いて発表することを行う。講義者が、それらの学生の見解を尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。				
学習の成果(学習成果)				
(1) 教育方法の種類や様々な教育の技術の長所と短所を述べ、使い分けることができる。 (2) 授業を構想し評価し反省できる。 (3) 発達や個性に応じて教育方法を工夫することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	教育方法の種類(学問の体系性を重視する立場)			
第3回目	教育方法の種類(生活重視の立場)			
第4回目	教育方法の種類(その他の立場)			
第5回目	教育評価			
第6回目	話し方等の教育技術			

第7回目	板書の仕方
第8回目	情報機器とそれにふさわしい教材の活用
第9回目	子どもの発達とそれに応じた教育方法
第10回目	個性に応じた教育方法（基礎）
第11回目	個性に応じた教育方法（発展）
第12回目	授業を構成する要素
第13回目	授業研究（基礎）
第14回目	授業研究（発展）
第15回目	まとめ
事前・事後学習	講義のポイントを復習すること、宿題をすること。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート	40%	評価基準については講義中に述べる。
調査報告書		
小テスト		
試験	40%	基本的事項について述べられるか筆記試験で確認する。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教科書：自作プリント等を使う。参考書は講義内で指示する。

履修上の留意点・ルール

休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。私語をしない。積極的に質問すること。